

男女の違和感、語り合おう



日常で経験した男女間の「モヤモヤ」を語り合う参加者
＝11月24日、出水市中央公民館



田隆之さん
Sで話題となった事例を

男女間の価値観や意識の差から生じる「モヤモヤ」を題材に、ジェンダー平等を考えるセミナーが11月下旬、出水市中央公民館であった。参加した市民ら146人は講演やワークシヨップを通して、違和感を解消するための対話の大切さを確かめた。



「らしさ押し付け後悔」

「ピンとこない価値観」

出水でジェンダーセミナー

紹介。父親や夫は座って乾杯し、母親と妻は立って料理や飲み物を運んでいる画像を、男性ユーザーが、古き良き日本の家族像として投稿したことから物議を醸したという。

実際に女性から、同じような状況になることを理由に「お盆や正月に実家に帰るのが憂鬱だ」と相談を受けることも多いという。清田さんは、性別役割分業意識が根強く残っている指摘。「違和感を抱いたり、何か嫌だと思ったら、遠慮なくしゃべった方がいい」と呼びかけた。

ワークシヨップでは参加者が5、6人のグループに分かれ、モヤモヤを感じた体験を語り合った。

市職員の本多孝成さん(31)は、同僚の女性から化

セミナーは、県男女共同参画室が、地域におけるジェンダー平等の推進を図ろうと企画した。出水市を皮切りに、今年1月には、市町村長を対象にしたトップセミナーを鹿児島市で開く。

住民の悩み寄り添いたい

セミナーでは、男女共同参画地域推進員による活動発表もあった。鹿児島県が委託し、各市町村で啓発活動をボランティアで行う。

男女共同参画地域推進員

出水市推進員の窪まさ子さん(66)ら4人が登壇。ジェンダー問題を取り上げる広報誌「でさいんいずみ」を発行するなどの取り組みを報告した。

活動は徐々に地域で認知されるようになり、「お茶くみは女性がするべきか」「ピンクが好きな息子にどう接すればいいか」など、市民から相談を寄せられる機会が増えたと説明。窪さんは「これからジェンダー問題に悩む地域の住民に寄り添える存在であり続けたい」と意気込む。

むずかしい漢字とことば

下旬(げ・じゅん)＝月の21日から終わりまで。

違和感(い・わ・かん) 描(えが)いた

紹介(しょう・かい) 乾杯(かん・ぱい) 投稿(とう・こう)

物議(ぶつ・ぎ)を醸(かも)す＝そのことがもとになって、言い争いやもめごとがおこる。

状況(じょう・きょう) お盆(ぼん) 憂鬱(ゆう・うつ)

指摘(し・てき) 抱(いだ)いた

嫌(いや) 遠慮(えん・りょ)

同僚(どう・りょう)＝同じ職場にいる、地位が同じくらいの人。

化粧(け・しょう) 悩(なや)み 振(ふ)り返(かえ)る

裸(はだか)

諭(さと)す＝よく分かるように言い聞かせる。

述懐(じゅつ・かい)＝考えていることや思い出を話すこと。

押(お)し付(つ)け 後悔(こう・かい) 誰(だれ)

企画(き・かく) 開催(かい・さい)

委託(い・たく)＝仕事などを人にたのんで、まかせること。

啓発(けい・はつ)＝教え導いて、考えや能力を豊かにすること。

登壇(とう・だん)＝(演説などをするために)ステージに上がること。

雇用(こ・よう) 徐々(じょ・じょ) 寄(よ)り添(そ)う

意気込(い・き・ご)む



男女間の価値観や意識の差

【問3】 問2の場面を、男性ユーザーはどんなものとして交流サイト(SNS)に投稿したのでしょうか。

古き良き日本の家族像

性別役割分業意識が根強く残っている

【考えてみよう】 ジェンダーに関する「モヤモヤ」や違和感を、友達や家族と話し合おう。